

## 2021年6月期 決算サマリー

- 売上高は、当連結会計年度を通じて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、宿泊需要の低下により客室稼働、客室単価が低水準で推移した結果、15,711百万円（前年比△31.4%）
- 売上総利益、営業利益ならびに経常利益は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による売上高の減少に対し、コスト削減に取り組んだものの、売上原価として賃借料、店舗における労務費等の固定的な費用が大きいこと、また新規出店による固定的な費用の増加が売上高に連動する売上原価の減少を上回った結果、売上総損失4,284百万円、営業損失8,573百万円、経常損失8,346百万円
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、一部の店舗で新型コロナウイルス感染症拡大の影響により収益性が低下したことによる減損損失等を特別損失として計上したこと等の結果、親会社株主に帰属する当期純損失8,803百万円

### 1. 通期連結業績（2020年7月1日～2021年6月30日）

（百万円）

	2020年6月期	2021年6月期	増減	増減率
売上高	22,909	<b>15,711</b>	△7,198	△31.4%
売上総利益 (売上比)	1,512 6.6%	<b>△4,284</b> -	△5,797 -	-
販売費及び一般管理費 (売上比)	4,969 21.7%	<b>4,288</b> 27.3%	△680 +5.6pt	△13.7%
営業利益 (売上比)	△3,456 -	<b>△8,573</b> -	△5,116 -	-
経常利益 (売上比)	△3,514 -	<b>△8,346</b> -	△4,831 -	-
親会社に帰属する当期純利益 (売上比)	△4,334 -	<b>△8,803</b> -	△4,468 -	-

### 2. 事業別の状況

（百万円）

	2020年6月期	前年比 (2019年6月期比)	2021年6月期	前年比 (2020年6月期比)
チョイスホテルズ事業	17,236	74.0%	11,726	68.0%
グリーンズホテルズ事業	5,487	74.1%	3,808	69.4%
その他の事業	185	97.9%	176	94.7%

### 3. 主要な営業指標

	2017年6月期	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期	2021年6月期
客室数(室)	11,911	12,844	13,485	13,522	14,435
チョイスホテルズ事業	8,899	9,550	10,185	10,133	11,018
グリーンズホテルズ事業	3,012	3,294	3,300	3,389	3,417
客室稼働率(%)	83.2%	83.0%	82.1%	63.3%	54.1%
チョイスホテルズ事業	84.3%	84.1%	83.8%	64.2%	54.9%
グリーンズホテルズ事業	80.1%	80.0%	77.0%	60.8%	51.6%
客室単価(円)	6,514	6,679	7,125	6,744	5,336
チョイスホテルズ事業	6,727	6,956	7,463	7,115	5,465
グリーンズホテルズ事業	5,850	5,850	6,016	5,587	4,923

### 4. 財政・投資の状況

#### ■ 財政状態

事業運営に対する影響の長期化に備え、運転資金及び事業運営における機動的かつ安定的な資金調達手段を確保し手元流動性を高めるため、2021年3月、借入総額17,500百万円のシンジケートローン契約および500百万円の資本的劣後ローン契約を締結

(百万円)

	2021年6月期 期末	前期末比		増減要因
		増減	増減率	
流動資産	6,283	△205	△3.2%	現金及び預金の減少 413 百万円、
固定資産	11,013	+79	+0.7%	売掛金の増加 449 百万円、
資産合計	17,296	△125	△0.7%	未収還付法人税等の減少 336 百万円、 差入保証金の増加 236 百万円、等
流動負債	10,472	+2,812	+36.7%	
固定負債	9,757	+5,998	+159.5%	短期借入金の増加 2,600 百万円、
負債合計	20,229	+8,810	77.2%	長期借入金の増加 5,893 百万円、等
純資産合計	△2,933	△8,936	-	利益剰余金の減少 8,932 百万円、等
自己資本比率	△17.0%	△51.5pt		

#### ■ キャッシュ・フローの状況

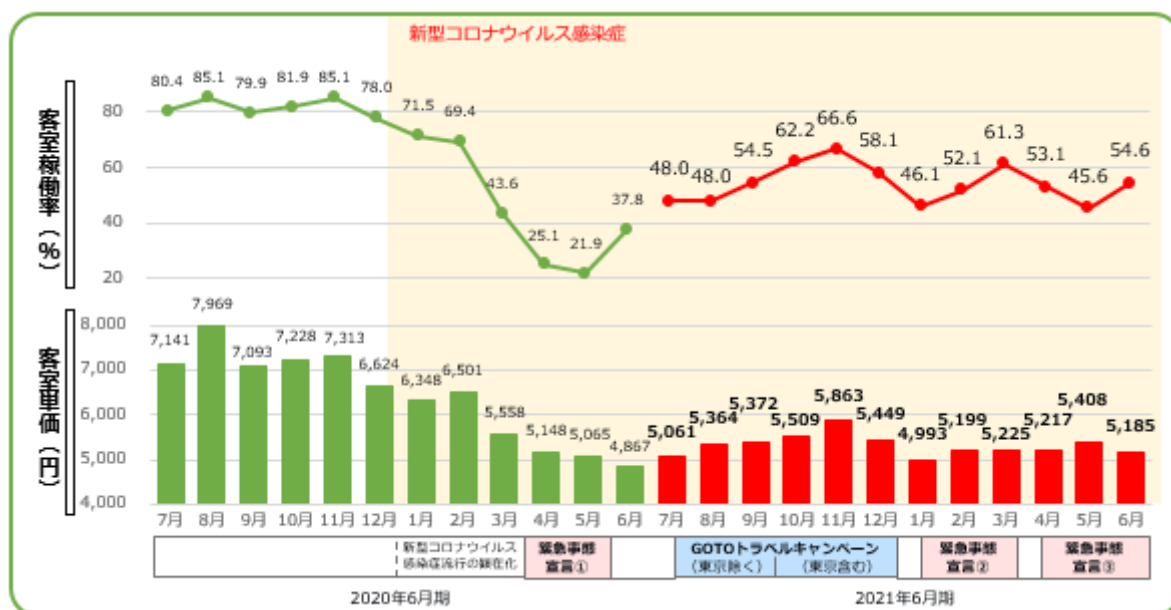
現金及び現金同等物の期末残高 3,881 百万円 (前期比△413 百万円) (百万円)

	2021年6月期	増減要因
営業活動 によるCF	△7,616	減少は、税金等調整前当期純損失 8,543 百万円、等
投資活動 によるCF	△929	減少は、有形固定資産の取得による支出 555 百万円、 差入保証金の差入による支出 357 百万円、等
財務活動 によるCF	8,132	増加は短期借入による資金増加 2,600 百万円、 長期借入金による資金増加 6,625 百万円、 減少は長期借入金の返済による支出 731 百万円、等

## 5. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

2021年6月期全体を通じて、新型コロナウイルス感染症が大きく影響

**客室稼働率・客室単価は流行の拡大・収束の波に伴い変動**



### ■ コロナ禍における取り組み

#### ① 継続的なコスト削減策の実行

経営環境の激変にも耐え得る筋肉質な経営構築に向け、あらゆる角度から事業運営体制見直しを実施

2022年6月期は、更なる効率化へ向け、代表取締役社長を本部長とした構造改革PJをスタート

● 全社的な取り組み	
賃料交渉	全オーナーを対象にきめ細かい交渉を継続
外注費交渉	清掃代など、契約内容の見直し、単価変更などを交渉
人件費・役員報酬	社員のシフト調整、一時帰休、賞与カット、諸手当カット、出張抑制、役員報酬の賞与・月額カット 等
設備管理費の見直し	設備や保守に関する契約見直し、交渉 等
水道光熱費	電力会社の切り替え、節水器具の利用、契約条件の見直しや交渉 等
食材費	調達ルートの見直し、契約変更や値下げ交渉 等
手数料	クレジットカード手数料 等
WEB会議の活用	交通費や出張費の削減
その他	雇用調整助成金の活用
● 店舗における活動	
店舗運営業務	清掃の一部を内製化、本社便、備品発注など集配頻度の見直し
その他	一部アメニティの商品規格見直し 等

## ②アフターコロナ期の収益に繋がるオペレーターチェンジ案件の獲得

予定に沿った新築案件の開業（コンフォートホテル）に加えて、戦略的にオペレーターチェンジ案件を獲得（主にコンフォートイン）。初期投資を抑えつつ、需要回復後の高収益が見込める案件を厳選し積極獲得。今後の収益安定化に繋がる店舗数を短期で獲得する効率的な投資を実行



## 6. 今後の見通し

### ■業績予想について

現時点で、客室稼働率や客室単価の見通しに関する想定は難しく、現段階で合理的に算定することが困難であることから、2022年6月期の業績予想は未定とし、予想が合理的に算定可能となった時点で開示いたします。当社ではしっかりとした感染予防対策による安心安全なサービスを提供することを通じて、引き続き顧客満足度向上に努めつつ、需要回復期の競争力強化に向けた多面的な基盤強化を進めてまいります。

### ■第三者割当による優先株式の発行について

当社は、本日お知らせのとおり、D B J 飲食・宿泊支援ファンド投資事業有限責任組合、近畿中部広域復興支援投資事業有限責任組合に対し、優先株式を新設し第三者割当の方法により、それぞれ総額 6,000 百万円、500 百万円の優先株式を発行することを決議いたしました。新型コロナウイルス感染拡大による影響が長引き、また見通しが不透明な中で、自己資本が大きく毀損している状況に鑑み、既存株主への影響に配慮しながら財務基盤を安定化するための様々な方策を検討して参りましたが、資本性のある資金調達の実施することで、早急に自己資本の増強を図るとともに、アフターコロナにおける成長軌道回帰を図るための投資資金を確保することが必要であると判断いたしました。

詳細は、本日お知らせいたしました「第三者割当による優先株式の発行、定款の一部変更並びに資本金及び資本準備金の額の減少に関するお知らせ」をご覧ください。

(注) 資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。将来数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願い申し上げます。